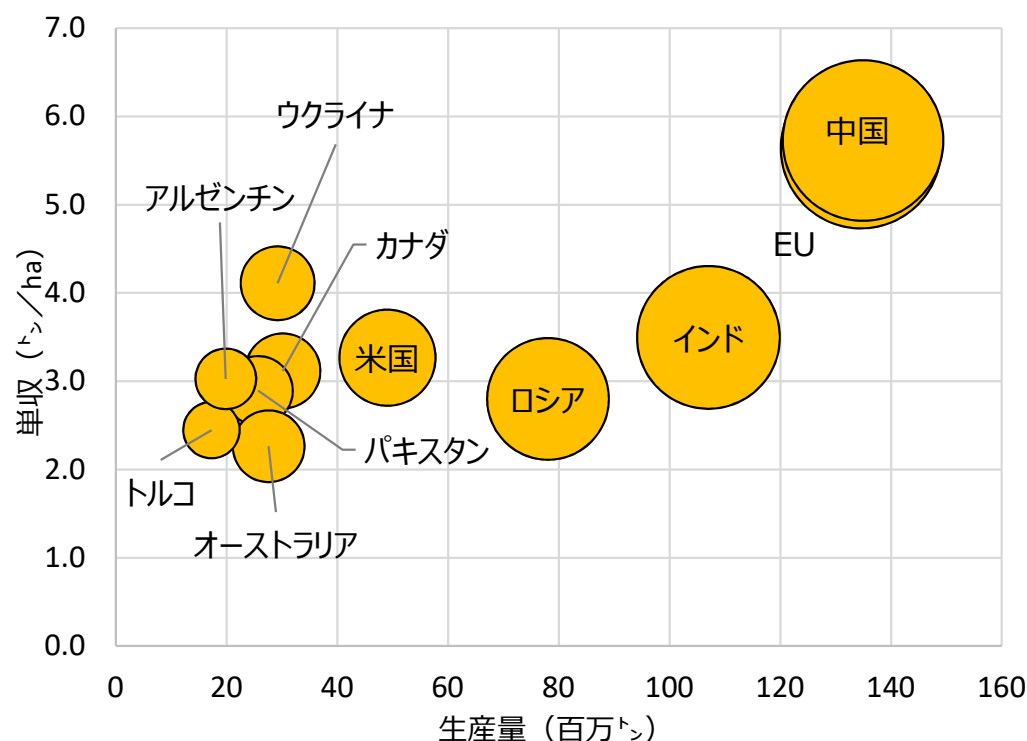


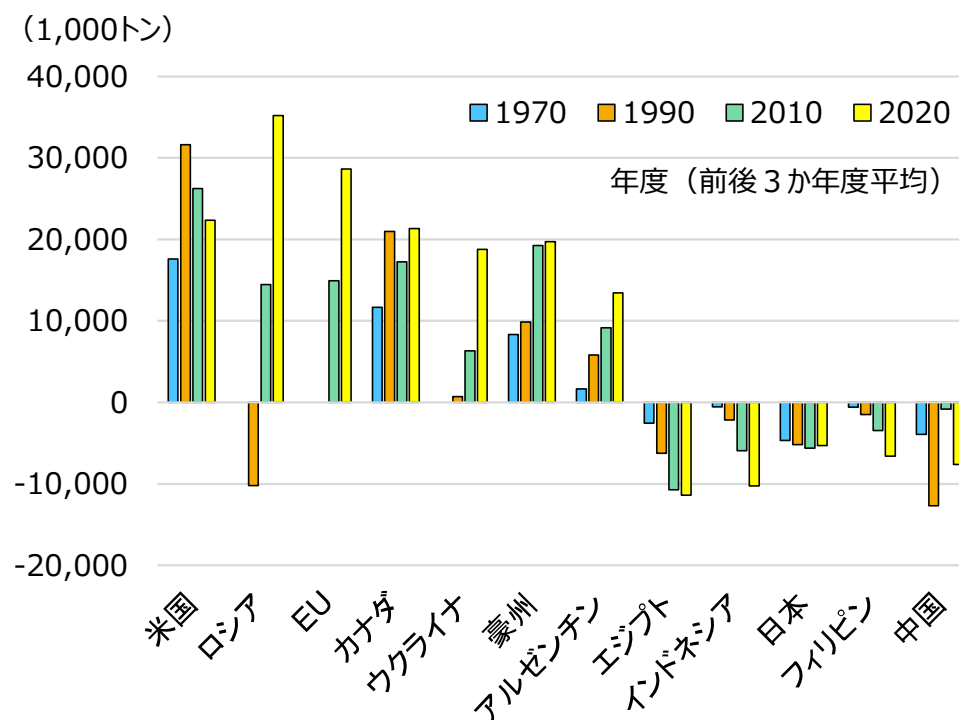
## 9 小麦需給と貿易動向

- 世界の小麦生産量(2019-21年度平均)は、中国、EUがそれぞれ17%を占め、次いで、インド、ロシア、米国と続き、上位5か国・地域で65%のシェア。米国のシェアは低下傾向。
- 小麦は、主に単収の伸びにより生産量が増加する一方、先進国の収穫面積は、若干の減少傾向にある。  
(※ウクライナ情勢による影響が懸念されている)
- 2000年代以降、伝統的な主要輸出国である米国、カナダ等に加えて、新興のロシア、ウクライナが輸出市場で台頭。ロシアの輸出量は2010年代後半に米国の輸出量を超えている。
- 北アフリカ・中東地域ではエジプト等、東南アジアではインドネシア、フィリピン等が輸入拡大。ロシア、ウクライナ等の新興輸出国が、中東・北アフリカ等へ輸出を増やした。

① 世界の小麦生産量・単収と主要国の生産量シェア（2019-21年度平均）



② 国別小麦純輸出量の推移



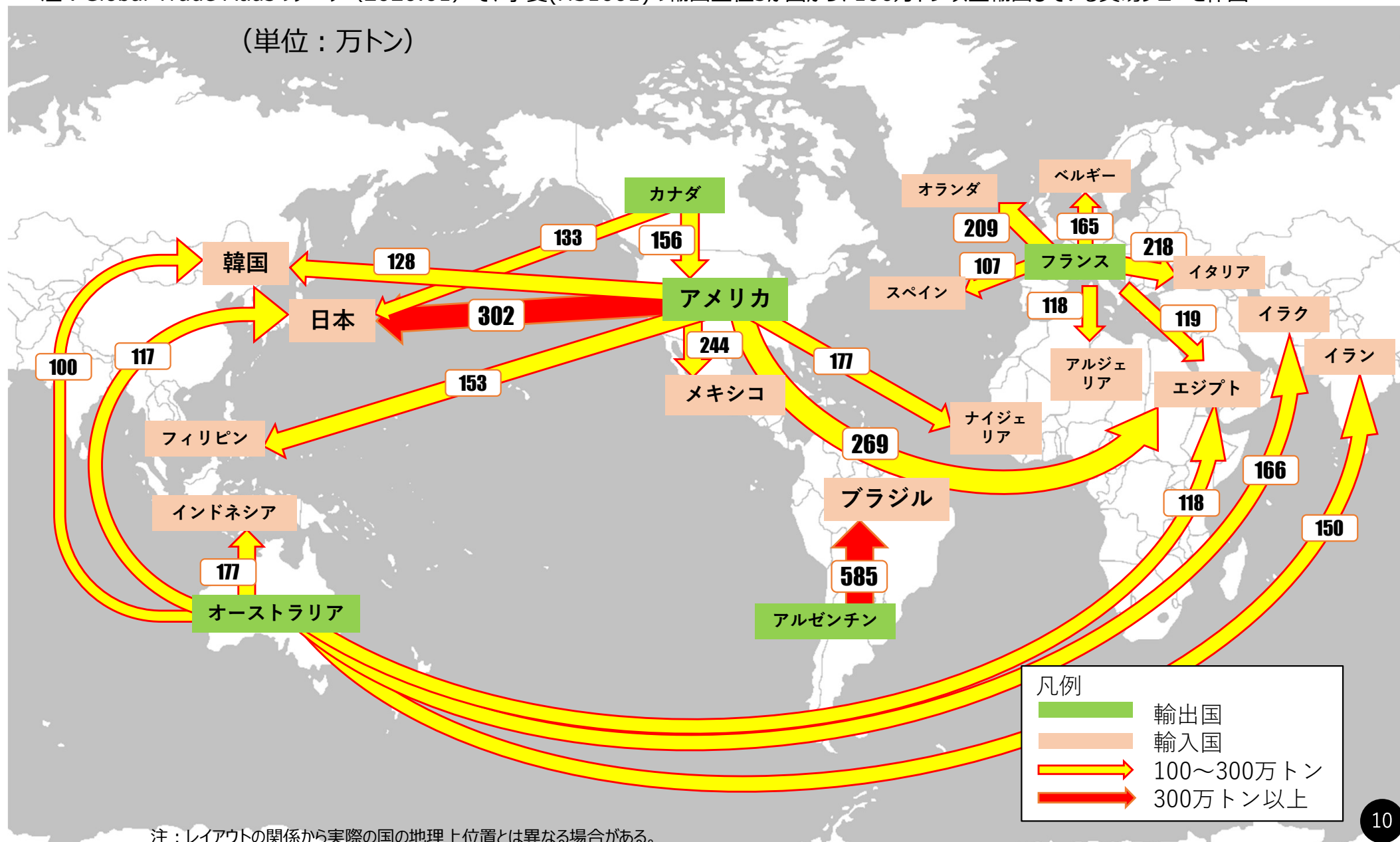
# 10 小麦の需給動向と貿易フローの変化：2002年小麦貿易フロー図

2002年（前後3か年平均）の輸出量シェアは、米国が25%で最大。豪州、カナダ、アルゼンチン等が続く。輸入量シェアは、エジプト、ブラジル、日本等がそれぞれ約6～8%を占めた。

(USDA PS&D Online data)

注：Global Trade Atlasのデータ（2020.01）で、小麦(HS1001)の輸出上位5か国から、100万トン以上輸出している貿易フローを作図

(単位：万トン)



注：レイアウトの関係から実際の国の地理上位置とは異なる場合がある。

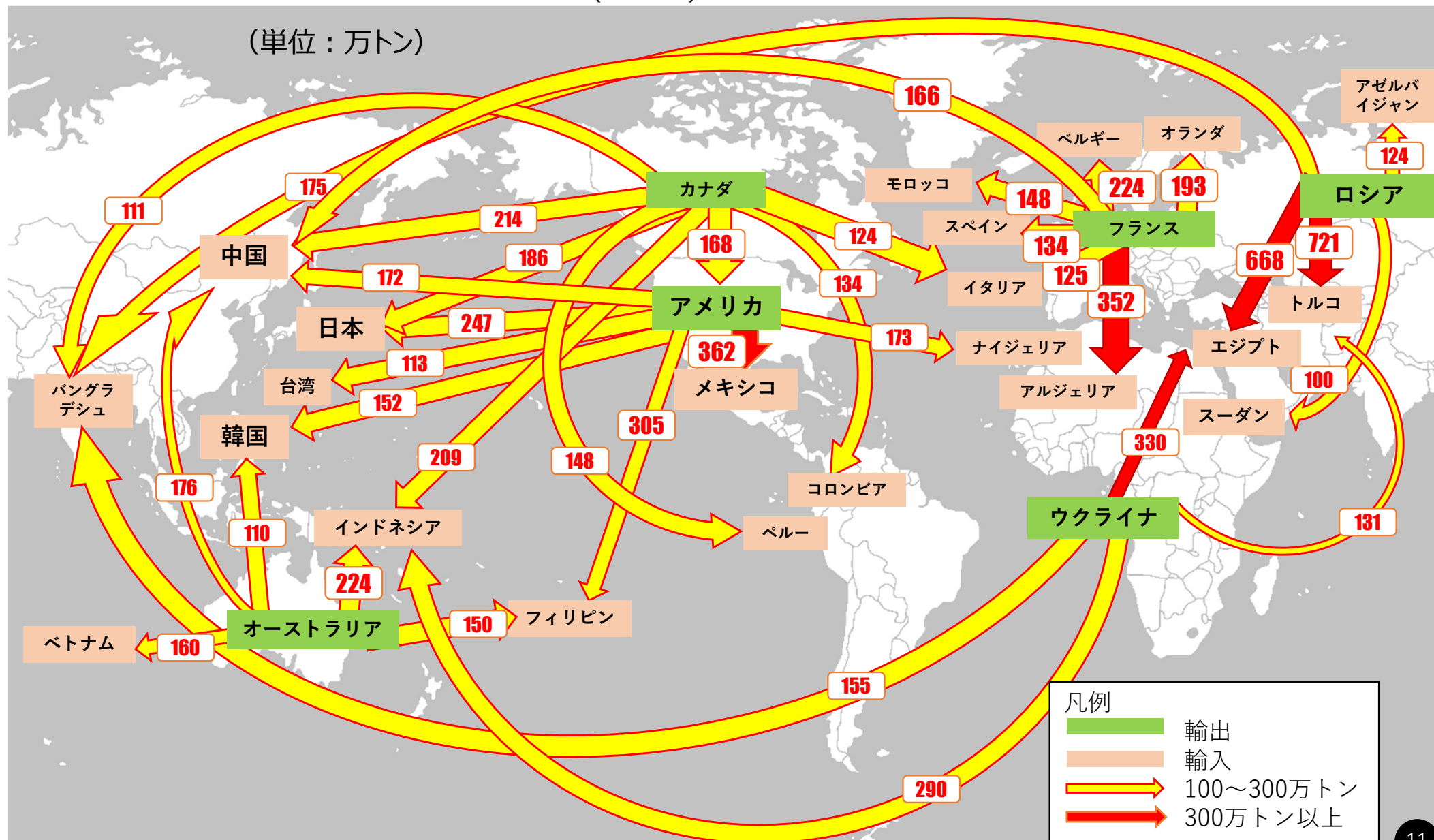
# 1 1 小麦の需給動向と貿易フローの変化：2020年の小麦貿易フロー図

2020年（前後3か年平均）の輸出量シェアは、米国が13%に低下する一方、ロシアが18%に増加。東南アジア、中東・アフリカへの輸出が増加。

(USDA PS&D Online data)

注：Global Trade Atlasのデータ（2023.01）で、小麦(HS1001)の輸出上位5か国から、100万トン以上輸出している貿易フローを作図

(単位：万トン)



注：レイアウトの関係から実際の国の地理上位置とは異なる場合がある。